

ワイヤレスマイクロホン Wireless Microphone Microphone sans fil

取扱説明書 Operating Instructions Mode d'emploi

お買い上げいただきありがとうございます。
警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

Bluetooth®

ECM-AW3



©2009 Sony Corporation Printed in Japan

http://www.sony.net/

この取扱説明書は、古紙 70%以上の再生紙と、VOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed on 70% or more recycled paper using VOC (Volatile Organic Compound)-free vegetable oil based ink.

日本語

警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

- 安全のための注意事項を守る
この安全のための注意事項をよくお読みください。
・故障したら使わない
動作がおかしくなったり、破損しているものに近づいたり、すぐソニーの相談窓口にご相談ください。
・万一、異常が起きたら

- 変な音やにおい、煙が出た場合は
電源を切る
電池および接続ケーブルをはずす
ソニーの相談窓口にご相談する

警告表示の意味
取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大げな人身事故の原因となります。

注意 この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

Table with 3 columns: 注意を促す記号 (Fire, Shock, Prohibit), 行為を禁止する記号 (No fire, No shock, No open flame), 行為を指示する記号 (Warning, Caution).

内部に水や異物を入れない
水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐにスイッチを切り、ソニーの相談窓口へご相談ください。

分解や改造をしない
火災や感電の原因となります。危険ですので、絶対に自分で分解しないでください。内部の点検や修理はソニーの相談窓口へご相談ください。

心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離して使用する
電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くでは本機を使用しない
電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

航空機内では本機を使用しない
電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

本機を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、本機を使用しない
電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

運転中は使用しない
自動車、オートバイなどの運転をしながらヘッドホンやイヤホンなどを使用したり、細かい操作をすることは絶対にやめください。交通事故の原因となります。また、歩道などを使用するときは、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に十分に注意してください。

注意 下記の注意事項を守らないと、けがをしたり周辺の家財に損害を与えることがあります。

大量音で長時間聴きすぎない
耳を刺激するよう大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにヘッドホンやイヤホンで聞くときにはご注意ください。周囲への音漏れにも注意し、呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

湿気やほこり、油煙、湿気の多い場所や直射日光のある場所には置かない
故障の原因となります。

落としたりぶつけたりしない
故障の原因となります。

ぬれた手で本機や電池をさわらない
感電の原因となる場合があります。

電池の挿入口や端子などから、内部に金属類や燃えやすい物などの異物を差し込んだり、落としたりしない
火災・感電の原因となります。

危険 電池についての安全上のご注意とお願い
火の燃焼、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記のことを必ずお守りください。

- 危険 火の中に入れてはいけない。ショートをさせない。
危険 火のそばや炎下、高温になった車の中などに放置しないでください。
警告 充電中は充電しないでください。
注意 電池の電圧と本機の電池端子部は時々乾いた布などで汚れを拭き取ってください。電極や電池端子部に皮漏などや汚れがたまること、動作時間が短縮される場合があります。

もし電池の液が漏れたときは、電池ケース内の漏れた液をよくふきとってから、新しい電池を入れてください。万一、液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。

主な特長

- 本機マイク入力端子を搭載したビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続して、遠く離れた場所の音声をモノラルで明確に記録することができるワイヤレスマイクロホンです。
ビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続するレシーバーと、マイクロホン(トランスミッター) (以下、マイクロホンとする)のそれぞれにマイクユニットとイヤホン端子を装備しています。
マイクロホン側のレシーバー側の人が離れていても、マイクロホンに接続したイヤホンと、レシーバーに接続した録音機器のヘッドホン端子に接続したイヤホンで、お互いの周辺の音声を確認し、会話することが可能です。
また、マイクロホン側の音声を録音機器に記録することもできます。(レシーバー側の音声を録音機器に記録されません。また、レシーバーを接続している録音機器にヘッドホン端子やイヤホン端子がない場合は、会話をしながらの録音はできません)
本機は、マイクロホン(レシーバー)それぞれにイヤホン端子に直接接続したイヤホンでお互いの周辺の音声を確認しあうトランスミッターとしても使用できます。
本機は、Bluetooth無線通信技術を使用しています。

Bluetooth® 無線通信技術について

Bluetooth無線通信技術とは、パソコンとその周辺機器、携帯電話など、さまざまな機器同士を無線で接続し、相互の通信を可能にする技術の名称です。
本機は製造時にマイクロホンとレシーバーのペアで通信できるように設定されています。そのため一般のBluetooth機器と異なる接続、ペアリングがユーザーの力で行う必要はありませんが、ペアで販売されているほかのマイクロホンとレシーバーの組み合わせ、複数のマイクロホン、一般のBluetooth機器を接続しているパソコン、携帯電話とは通信できません。

- ご注意
本機は以下の状況において通信感度に影響を受けることがあります。
- マイクロホンとレシーバーの間に人体や金属、または反射面などの障害物がある場合
- 無線LAN機器が稼働している場所、多数のBluetooth機器を近距離で使用している場所、電子レンジを使用している周辺、その他電磁波が発生している場所など
- マイクロホンをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に近づけると、電波の影響で、記録される音声がノイズが入る場合があります。1m以上離れた状態で使用してください。
- 通信状態が変化して音声が途切れたり、ノイズが発生する場合、マイクロホン(レシーバー)の通信ランプが早い点滅をします。電波が遠くか、障害物がないかなど確認し、通信ランプが安定して点灯している状態で使用してください。

取り扱い上のご注意

- 無線通信機器については保証を受けた地域、地域でしか使用できません。
本機は精密機器です。落としたり、たたり、強い衝撃を与えないでください。
高温多湿の場所での使用、保存は避けてください。
使用中、イヤホンをマイク(取首部)に近づけると「ピー」という音が発生することがあります(ハウリング現象)。その場合は、イヤホンとマイク(取首部)の距離をできるだけ離すか、イヤホンの音量を下げてください。
使用中にマイクロホンに触れると、ノイズとして録音されてしまいます。手などが触れないようにご注意ください。
温度の低い環境で本機をご使用になる場合は、常温時(25℃)に比べて電池の性能が低下しますので、使用できる時間が短くなります。

機器認証について
本機は、電波法に基づき小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときは無線機の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
- 本機を分解、改造すること
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと
本機は国内専用です。海外では使用いたできません。海外では国によって電波使用制限や表示方法が異なるため、本機を使用した場合罰せられることがあります。

商標について
Bluetooth® トレードマークは、商標権利者が所有しており、ソニーはライセンスに基づき使用しています。
その他、この取扱説明書に記載されているシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では「TM」、「®」マークはすべてについては明記していません。

周波数について
本機は2.4GHz帯(2400GHzから2.4835GHz)まで使用していますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

使用上のご注意
本機の使用周波数は2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場や製造ラインなどで使用される免許を要する移動体通信用無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。
1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または本機の運用を停止(電波の放射を停止)してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口へご相談ください。
この無線機器は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、干渉距離は50m以下です。

各部の名称

マイクロホン (A-①) \*
レシーバー (A-②) \*
\* 図のようにマイクロホンには[MICROPHONE]、レシーバーには[RECEIVER]と表示されています。

マイクロホン/レシーバー共通
電源スイッチ
電池の消耗を防ぐために、使用しないときは電源スイッチを切ってください。

通信ランプ
機器や通信の状況によって、ランプは以下のように点灯・点滅・消灯します。

Table with 3 columns: 状態 (On, Blinking, Off, Standby), レシーバー (Green, Red, Green, Green), マイクロホン (Green, Red, Green, Green)

③イヤホン端子
レシーバーのイヤホン端子にイヤホン接続することにより、マイクロホンで収音している音が確認できます。

また、マイクロホンのイヤホン端子にイヤホン接続することにより、レシーバーで収音している音声を確認できます。

- ④マイク(取首部)
⑤必要に応じてご使用ください。
⑥バッテリー警告ランプ(BATT)
⑦音量調節ボタン(VOLUME)
⑧電池ふた
⑨クリップ
⑩アームバンド

⑪ワイヤレス接続
⑫ワイヤレス接続
⑬ワイヤレス接続

⑭電池の入れかた
電池(別売)をご用ください。電池は単形アルカリ乾電池または単形ニッケル水素電池1本をご使用ください。ソニー製電池の使用をおすすめします。他の電池では、本機の性能が十分に発揮できない場合があります。

- 1 電池ふたをはずす。
2 電池をケース内の表示に従って正しく入れる。
3 電池ふたを閉じる。

⑮取り付けかた
衣服などに取り付ける
クリップで取り付けるなどお好みの場所に取り付けてください。マイクロホンで収音している音声をレシーバーに接続したイヤホン、または録音ケーブルでレシーバーに接続した録音機器に接続したイヤホンで確認する(このあとの説明を参照)などして、使用する状況や周囲の状況に合わせて最適な位置に取り付けてください。

⑯アームバンドを使う (イラスト ⑭-①参照)
アームバンドにクリップで取り付け、腕に巻きつけてご使用ください。

⑰イヤホンハンガーを使う (イラスト ⑭-②参照)
お子様など耳の小さな方から使用する際、イヤホンがはずれやすい場合にお試しください。イラストのようにイヤホンハンガーにイヤホンを取り付けてください(イラスト ⑭-③、⑭-④)。アーム部分を耳にかか、イヤホンが耳の穴の近くにくるように位置を調節してください。(イラスト ⑭-⑤)は左耳に取り付けたい状態です。

⑱ビデオカメラのグリップベルトに取り付ける (イラスト ⑭-⑥参照)
レシーバーをビデオカメラに接続して使用する場合は、イラストのようにビデオカメラのグリップベルトに、マイクロホンが見える位置にクリップで取り付けてください。

⑲本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

- 1 レシーバーのイヤホン端子と録音機器のマイク入力端子に付属の録音ケーブルを接続する。
2 録音機器のスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
3 マイクロホンとレシーバーの電源スイッチを[ON]にする。

⑳便利な使い方
本機をマイクロホン端子で使用する場合
レシーバーをビデオカメラやレコーダーなどの録音機器に接続する際は、レシーバーと録音機器の電源スイッチが[OFF]の状態で行ってください。

English

Before operating the unit, please read these instructions thoroughly, and retain them for future reference.

WARNING

To reduce fire or shock hazard, do not expose the unit to rain or moisture.

CAUTION

Excessive sound pressure from earphones and headphones can cause hearing loss.

Regulatory Information

Countries and regions

This product can be used in the country or region where purchased (if outside Europe). For customers in Europe, please refer to the other operating instructions. This device is approved for the country or region of intended use. Using this device with the affixed approval label removed may be punishable by law.

For Customers in the U.S.A. and Canada

CAUTION

You are cautioned that any changes or modifications not expressly approved in this manual could void your authority to operate this equipment.

Note:

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:
-Reorient or relocate the receiving antenna.
-Increase the separation between the equipment and receiver.
-Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
-Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

This device complies with part 15 of the FCC Rules, the Canadian ICES-003 and RSS-Gen of IC Rules. Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause harmful interference, and
(2) This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

IMPORTANT NOTE
To comply with FCC/IC RF exposure requirements, the following antenna installation and device operating configurations must be satisfied: the antenna has been installed by the manufacturer and no change can be made. This device and its antenna must not be co-located or operated in conjunction with any other antenna or transmitter.

This equipment complies with FCC/IC radiation exposure limits set forth for uncontrolled equipment and meets the FCC/IC radio frequency (RF) Exposure Guidelines in Supplement C of OET 67. This equipment generates low level RF energy sufficient to be deemed to comply without testing of specific absorption ratio (SAR).

For Customers in Europe

Refer to the other operating instructions.

For Customers in Singapore

Complies with IDA Standards DB00353

Features

- This wireless microphone is designed for use with a recording device such as video camera or IC recorder with a microphone input jack for recording sound clearly in monaural even when the sound source is far from the recording device.
• Microphone units and earphone jacks are provided in both the microphone (transmitter, referred to below as "microphone") and the receiver connected to the recording device. When earphones are connected to both the microphone and the recording device, a person on the microphone side and another person on the receiver side can hear the other side's sound or voice even when far from each other. The sound picked up by the microphone can be recorded on the recording device. (Receiver sound cannot be recorded. If the recording device has no headphone or earphone jack, the person on the receiver side cannot hear the other side's voice during recording.)
• This wireless microphone can be used as a transceiver so that the sound at either end can be monitored from the other end through earphones directly connected to the earphone jacks of both the microphone and receiver.
• This wireless microphone uses the Bluetooth wireless communication technology.

Bluetooth® Wireless Communication Technology

- Bluetooth wireless communication technology allows communication between various Bluetooth devices without using cables. Devices that can use this technology include PCs, computer peripheral devices and mobile phones.
• The microphone and the receiver are factory-set to communicate between each other; therefore, operations usually needed for Bluetooth devices, such as authentication, pairing and passkey input, are not necessary. However, communication with a microphone or receiver not sold as a pair, or any other Bluetooth devices such as mobile phones, PCs, etc., is not possible.

Notes

- When there are obstacles such as people, metallic objects, walls, or reflective surfaces between the microphone and the receiver.
- When used in a location where a wireless LAN system environment exists, near multiple Bluetooth devices that are operating, near a working microwave oven, or where there are electromagnetic waves.
• If the microphone is placed in close proximity to a recording device such as a video camera or IC recorder, RF interference may result in noise in the recorded sound. Keep the microphone at least 1 m (3 ft.) from the video camera during use.
• If there is noise or there is no sound because of deteriorating communication, the communication lamps on the microphone and receiver will blink rapidly. Ensure that the distance between the devices is not too far, and no obstacles are between them. Continue use when the communication lamp is lit constantly.

Notes on Use

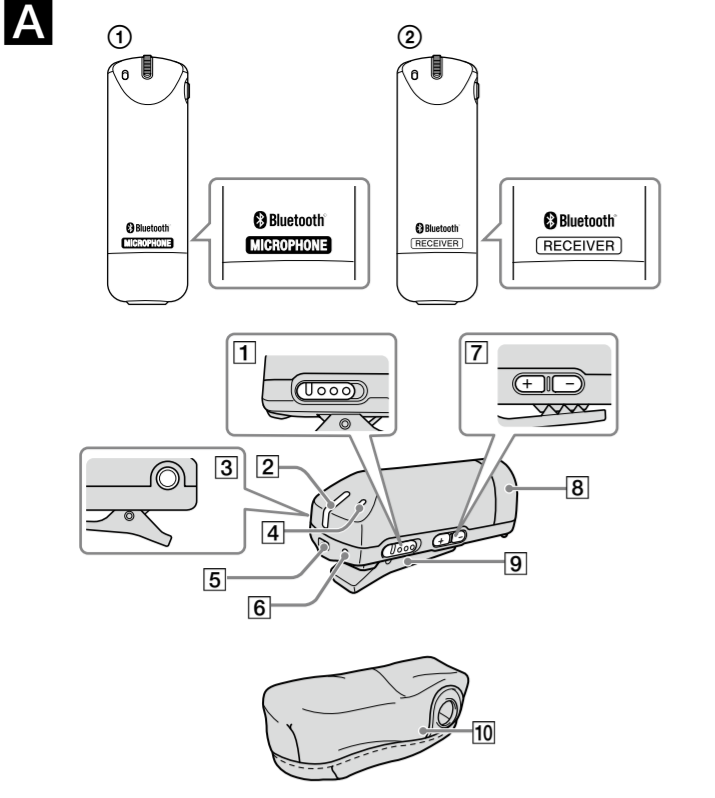
- Do not let any liquid or foreign objects get inside the casing.
• Do not disassemble or modify the wireless microphone.
• Do not use this wireless microphone in a medical institution such as a hospital, near a medical electrical device, in an aircraft, or if radio interference with another device(s) occurs. RF energy emitted from this wireless microphone may interfere with other devices, resulting in an accident.
• The wireless communication device can be used in only the countries or regions where obtain the authentication.
• This wireless microphone is a precision instrument. Do not drop, strike or apply a strong impact.
• Keep the wireless microphone away from high temperature and humidity.
• If the earphone is placed near the microphone (sound pickup unit) during recording, a howling effect (acoustic feedback) may occur. If this happens, place the earphone farther away from the microphone (sound pickup unit), or lower the volume of the earphone.
• If you touch the microphone during recording, noise will be recorded. Be careful not to touch the microphone with your hands, etc.
• When used at low temperature, the battery performance drops compared to use at normal temperature (25 °C (77 °F)) and operating time becomes shorter.
• Do not expose the batteries to excessive heat such as sunshine, fire or the like.

On Trademarks

The Bluetooth trademarks are owned by their proprietor and used by Sony Corporation under license. All other products names mentioned herein may be trademarks or registered trademarks of their respective companies. Furthermore, TM and ® are not mentioned in each case in this manual.

Identifying the Parts Microphone (A-①)\*





## Attaching the receiver to the grip belt of the video camera (see illustration C-③)

When using the receiver with the video camera, attach it with the clip where it is visible and nothing blocks it from the microphone, such as to the grip belt of the video camera, as illustrated.

## D Using the Wireless Microphone

### Using the wireless microphone as a microphone

Before connecting the receiver to the recording device, make sure that the power switches of the receiver and recording device are set to OFF.

- Connect the supplied recording cable to the earphone jack of the receiver and the microphone input jack of the recording device.** The recording cable is a non-directional cable. With a monaural recording device, sound is recorded in monaural. With a stereo recording device, the same sound is recorded in the right and left channels.
- Turn on the recording device and set it to standby mode.**
- Set the power switches of the microphone and receiver to ON.** Immediately after they are turned on, the communication lamps of the two devices start slowly blinking blue, indicating that they are trying to detect, connect to, and authenticate each other. When connection is established and the recording device is ready for clear sound recording, the communication lamp of each device lights up blue.
- After checking that the communication lamp on the receiver is lit, start recording on the recording device.**

#### Notes

- When connecting the receiver to the recording device, be sure to use the supplied recording cable. The supplied recording cable has an internal resistor for adjusting the sound level between the earphone jack and microphone input jack.
- The earphone volume always returns to the default setting whenever the power is turned off. Sony recommends that you keep the default setting for recording.
- Use the volume adjusting button to adjust the volume of the earphone directly connected to the earphone jack.
- If you want to adjust the audio recording level, adjust it with the recording device. When adjusting the volume of the earphone connected to the recording device, adjust it with the recording device. If you change the receiver volume, the recording level also changes.
- During recording with a video camera, the confirmation beep that sounds at the start of recording may be recorded. Sony recommends that you set [BEEP] to [OFF] on your video camera. For further details, refer to the operating instructions of your video camera.

### Using the wireless microphone as a transceiver

- Connect the supplied earphones to the earphone jacks of the microphone and receiver.**
- Set the power switches of the microphone and receiver to ON.**

#### Notes

- If the power of the microphone turns off or the microphone and receiver are not connected when you start recording, noise or no sound may be recorded. Ensure that the communication lamps of the microphone and receiver are lit blue and connection is established, and then start recording.
- If the impact sound is applied to the microphone, ambient sound will be turned down like no sound for two or three seconds by the automatic level adjustment and then return to the former level. This is not a malfunction.
- The sound picked up by the receiver is not recorded.
- When the volume adjustment button is pressed quickly, the level changes one step. When held down, the level continues to change. If you press the volume adjusting button while recording, a clicking sound will be recorded.
- Sony recommends that you turn off the receiver when not using it for recording. (The battery standby time of the microphone is about 3 times longer than that of the receiver.)
- It may take time for the communication lamp and this unit to turn off after the power switch is set to OFF. This is not a malfunction.
- This wireless microphone processes and transmits sound digitally, resulting in a slight lag between actual sound and the recorded (monitored) sound. As a result, when monitoring via earphone, an echo effect may be heard. Similarly, viewing pictures with sound recorded on this wireless microphone may also display this delay effect. However, this is not a malfunction.
- Adjust the audio recording level with the recording device or by changing the distance between the subject and the microphone.
- When the remaining battery charge is low, the communication lamp may blink irregularly and the microphone and receiver may not communicate with each other. This is not a malfunction. Replace with new batteries.
- Sony shall not be responsible for any failure to record audio properly due to trouble with this product.

## Specifications

### Wireless communication

Communication system	Bluetooth specification Ver. 2.0
Output	Bluetooth specification Power Class 1
Main compatible Bluetooth Profile	Advanced Audio Distribution Profile
Working range*	Up to 50 m (150 ft.)

### Microphone (transmitter)

Standby time Approx. 9 hours\*\*

### Receiver

Standby time Approx. 3 hours\*\*

### Microphone (transmitter)/receiver

System	Monaural, non-directional
Power requirements	1.5 V (a size AAA alkaline dry battery or a size AAA Ni-MH rechargeable battery***)
Power consumption	Approx. 0.3 W
Frequency response	300 - 9,000 Hz
Continuous operating time	Approx. 3 hours**
Dimensions (w/h/d)	Approx. 24 × 75 × 33.5 mm (31/32 × 3 × 1 3/8 in.)
Mass	Approx. 26 g (1 oz) (excluding the battery)
Operating temperature	5 °C to 40 °C (41 °F to 104 °F)
Storage temperature	-20 °C to +60 °C (-4 °F to +140 °F)

\* This is the approximate communication distance with an unobstructed view between microphone and receiver. Depending on recording location, such as if obstacles or reflective surfaces are between Bluetooth devices, radio wave conditions, etc.

\*\* With a Sony alkaline dry battery at 25 °C (77 °F) When used at low temperature, the operating time with an alkaline dry battery will shorten. Use of an Ni-MH rechargeable batteries is recommended.

\*\*\* Battery not included. A manganese dry battery should not be used.

### Included items

Microphone (transmitter) (ECM-AW3(T)) (1), Receiver (ECM-AW3(R)) (1), Recording cable (1), Wind screen (1), Carrying pouch (1), Arm band (1), Earphone (2), Earphone hanger (1), Set of printed documentation

Design and specifications are subject to change without notice.

## Français

Avant d'utiliser cet appareil, veuillez lire attentivement ce mode d'emploi et le consulter pour toute référence ultérieure.

## ATTENTION

Pour prévenir les risques d'électrocution ou d'incendie, n'exposez pas cet appareil à la pluie ou à la moisissure.

## AVERTISSEMENT

Une pression sonore excessive des écouteurs ou du casque peut provoquer des pertes d'audition.

## Informations réglementaires

### Pays et régions

Ce produit peut être utilisé dans le pays ou la région d'achat (sauf pays européen). Les utilisateurs européens doivent se reporter à l'autre mode d'emploi. Cet appareil répond aux normes dans le pays ou la région d'utilisation. L'utilisation de cet appareil sans l'étiquette d'homologation peut être punissable.

## Pour les clients résidant aux États-Unis et au Canada

## AVERTISSEMENT

Par la présente, vous êtes avisé du fait que tout changement ou toute modification ne faisant pas l'objet d'une autorisation expresse dans le présent manuel pourrait annuler votre droit d'utiliser l'appareil.

### Note

L'appareil a été testé et est conforme aux exigences d'un appareil numérique de Classe B, conformément à la Partie 15 de la réglementation de la FCC. Ces critères sont conçus pour fournir une protection raisonnable contre les interférences nuisibles dans un environnement résidentiel. L'appareil génère, utilise et peut émettre des fréquences radio; s'il n'est pas installé et utilisé conformément aux instructions, il pourrait provoquer des interférences nuisibles aux communications radio. Cependant, il n'est pas possible de garantir que des interférences ne seront pas provoquées dans certaines conditions particulières. Si l'appareil devait provoquer des interférences nuisibles à la réception radio ou à la télévision, ce qui peut être démontré en allumant et éteignant l'appareil, il est recommandé à l'utilisateur d'essayer de corriger cette situation par l'une ou l'autre des mesures suivantes :

- Réorienter ou déplacer l'antenne réceptrice.
- Augmenter la distance entre l'appareil et le récepteur.
- Brancher l'appareil dans une prise ou sur un circuit différent de celui sur lequel le récepteur est branché.
- Consulter le détaillant ou un technicien expérimenté en radio/télévision.

Cet appareil est conforme à la Partie 15 des règlements du FCC, à la norme canadienne ICES-003 et à la section RSS-Gen des normes IC (Industrie Canada). Son utilisation est sujette aux deux conditions suivantes : (1) Cet appareil ne doit pas générer d'interférences nuisibles et (2) il doit être en mesure d'accepter toute interférence reçue, y compris les interférences pouvant générer un fonctionnement indésirable.

## REMARQUE IMPORTANTE

Afin d'être en conformité avec les exigences définies en terme d'exposition aux radiofréquences par les normes FCC/IC, l'installation de l'antenne et les configurations de fonctionnement suivantes doivent être strictement respectées : l'antenne doit être installée par le fabricant et aucune modification ne pourra être effectuée ultérieurement. Cet appareil et son antenne ne doivent pas être placés au même endroit ou utilisés avec une autre antenne ou un autre émetteur.

Cet appareil est conforme aux limitations concernant l'exposition aux radiations établies par les normes FCC/IC et définies pour un environnement non contrôlé, ainsi qu'aux directives relatives à l'exposition aux radiofréquences des normes FCC/IC du supplément C du bulletin OET65. Cet équipement génère des niveaux d'énergie de radiofréquences suffisamment bas pour être considérés comme conformes et ne nécessite pas donc de test du débit d'absorption spécifique (SAR).

## Conditions d'utilisation

Cet appareil satisfait aux Exigences générales et information relatives à la certification du matériel de radiocommunication (CNR-Gen) du CA. Son utilisation est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l'utilisateur de cet appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre son fonctionnement.

## À l'attention des utilisateurs européens

Reportez-vous à l'autre mode d'emploi.

## Caractéristiques

- Ce microphone sans fil, destiné à être utilisé avec un enregistreur, par exemple un caméscope ou un enregistreur IC, pourvu d'une prise d'entrée microphone, permet d'effectuer des enregistrements nets du son en monophonie même lorsque la source sonore est éloignée de l'enregistreur.
- Des microphones et des prises d'écouteur sont présents sur le microphone (transmetteur, appelé ci-dessous le « microphone ») et sur le récepteur raccordé à l'enregistreur. Lorsque des écouteurs sont raccordés au microphone et à l'enregistreur, une personne du côté microphone et une autre personne du côté récepteur peuvent entendre le son ou la voix de l'autre côté même si elles sont éloignées l'une de l'autre. Le son capté par le microphone peut être enregistré sur l'enregistreur. (Le son d'écouteur ne peut pas être enregistré. Si l'enregistreur n'a pas de prise de casque ou d'écouteur, la personne du côté récepteur ne pourra pas entendre la voix de l'autre côté pendant l'enregistrement.)
- Ce microphone sans fil peut être utilisé comme émetteur-récepteur de sorte que le son à une extrémité peut être contrôlé à l'autre extrémité par les écouteurs directement raccordés aux prises d'écouteur du microphone et du récepteur.
- Ce microphone sans fil emploie la technologie de communication sans fil Bluetooth.

## Technologie de communication sans fil Bluetooth®

- La technologie de communication sans fil Bluetooth permet la communication entre divers appareils Bluetooth sans liaison filaire. Les ordinateurs, périphériques d'ordinateur et les téléphones portables peuvent employer cette technologie.
  - Le microphone et le récepteur ont été régisés en usine pour communiquer entre eux, et les opérations normalement nécessaires aux appareils Bluetooth, comme l'authentification, le jumelage et la saisie d'une clé, sont donc inutiles. Cependant, la communication avec un microphone ou un récepteur qui ne sont pas vendus comme paire, ou avec d'autres appareils Bluetooth, comme les téléphones portables, les ordinateurs, etc. n'est pas possible.
- Remarques**
- Le fonctionnement de ce microphone sans fil peut être perturbé dans les situations suivantes.
    - S'il y a des obstacles, par exemple des personnes, des objets métalliques, des murs ou des surfaces réfléchissantes entre le microphone et le récepteur.
    - S'il est utilisé à proximité d'un système sans fil LAN, de plusieurs appareils Bluetooth en service, d'un four à micro-ondes en service ou à un endroit exposé à des ondes électromagnétiques.
  - Si le microphone est placé à proximité d'un enregistreur, par exemple un caméscope ou un enregistreur IC, du bruit dû aux interférences RF pourra être enregistré avec le son. Tenez le microphone à au moins 1 m (3 pieds) du caméscope lorsque vous l'utilisez.
  - En cas de bruit ou d'absence de son dus à une mauvaise communication, les témoins de communication sur le microphone et le récepteur clignotent rapidement. Assurez-vous que la distance entre les appareils n'est pas trop grande et qu'il n'y a pas d'obstacle entre eux. Vous pouvez continuer à les utiliser lorsque le témoin de communication reste allumé.

## Remarques sur l'emploi

- Veillez à ce qu'aucun liquide ou objet ne pénètre dans le boîtier.
- Ne démontez et ne modifiez pas le microphone sans fil.
- N'utilisez pas ce microphone sans fil dans un centre médical, par exemple un hôpital, à proximité d'un appareil électrique médical, dans un avion, ou bien en présence d'interférences radiofréquences provenant d'autres appareils. Les interférences radiofréquences émises par ce microphone sans fil peuvent agir sur d'autres appareils et provoquer un accident.
- Les appareils sans fil ne peuvent être utilisés que dans les régions ou pays où leur utilisation est autorisée.
- Ce microphone sans fil est un instrument de précision. Ne le laissez pas tomber, ne le cognez pas et ne le soumettez pas à un choc violent.
- N'exposez pas le microphone sans fil à de hautes températures et à l'humidité.
- Si vous placez l'écouteur près du microphone (capteur de son) pendant l'enregistrement, un effet Larsen (réaction acoustique) peut se produire. Le cas échéant, éloignez l'écouteur du microphone (capteur de son), ou réduisez le volume de l'écouteur.
- Si vous touchez le microphone pendant l'enregistrement, le bruit du contact sera également enregistré. Veillez à ne pas toucher le microphone avec les mains, etc.
- Si vous utilisez cet appareil à basse température, les piles se déchargeront plus rapidement qu'à température normale (25 °C) (77 °F) et la durée d'enregistrement sera écourtée.
- N'exposez pas les piles à une chaleur excessive, notamment aux rayons directs du soleil, à une flamme, etc.

### Marques déposées

- Les marques déposées de Bluetooth appartiennent à leur détenteur et sont utilisées par Sony Corporation sous licence.
- Tous les autres noms de produits mentionnés dans ce document sont des marques commerciales ou des marques déposées de leurs sociétés respectives. Mais™ et ® ne sont pas mentionnés chaque fois dans ce manuel.

## A Identification des éléments

### Microphone (A-①)\*

### Récepteur (A-②)\*

\* [MICROPHONE] et [RECEIVER] sont imprimés respectivement sur le microphone et sur le récepteur, comme indiqué sur l'illustration.

### Microphone/Récepteur

#### 1 Interrupteur d'alimentation

Pour éviter d'user les piles, coupez l'alimentation par l'interrupteur d'alimentation lorsque vous n'utilisez pas le microphone/récepteur.

#### 2 Témoin de communication

Le témoin séculaire, clignote ou s'éteint de la façon suivante selon l'état des appareils et de la communication.

État	Récepteur	Microphone
Immédiatement après la mise sous tension du microphone et du récepteur	Clignote lentement en bleu (mode de veille)	
Liaison établie et le son peut être enregistré clairement	Séculaire en bleu	
Mise hors tension du récepteur	S'éteint	Clignote lentement en bleu (mode de veille)
Mise hors tension du microphone	Clignote lentement en bleu (mode de veille)	S'éteint
Son interrompu à cause d'une mauvaise communication	Clignote rapidement en bleu	

#### 3 Prise d'écouteur

Lorsqu'un écouteur est raccordé à la prise d'écouteur du récepteur, le son capté par le microphone peut être contrôlé. Lorsqu'un écouteur est raccordé à la prise d'écouteur du microphone, le son capté par le récepteur peut être contrôlé. Lorsque le câble d'enregistrement fourni est raccordé entre la prise d'écouteur du récepteur et la prise de microphone de l'enregistreur, le son capté par le microphone peut être enregistré sur l'enregistreur.

#### 4 Microphone (capteur de son)

#### 5 Crochet de lanrière

Vous pouvez fixer une lanrière, etc. (non fournie) au microphone/récepteur. Utilisez-la si nécessaire.

#### 6 Témoin d'avertissement de la pile (BATT)

Le témoin d'avertissement rouge clignote une fois par seconde environ lorsque la charge de la pile est faible. Remplacez alors immédiatement la pile par une neuve.

#### 7 Touche de réglage du volume ⊕⊖ (VOLUME)

#### 8 Couvercle du logement de la pile

#### 9 Clip

Utilisez-le pour fixer le microphone à un vêtement ou au brassard fourni. Utilisez-le pour fixer le récepteur à la sangle de votre caméscope. Le clip, qui peut être utilisé comme support, permet de poser le microphone/récepteur sur une table, etc.

#### 10 Bonnette antivent

Posez-la sur le microphone pour réduire le bruit de souffle causé par la respiration ou un vent fort.

## B Mise en place d'une pile

Procurez-vous une pile (en option). Utilisez une pile sèche alcaline AAA ou une pile rechargeable Ni-MH AAA. Les piles Sony sont recommandées. Cet appareil peut ne pas fonctionner de manière optimale avec les piles d'autres marques.

### 1 Retirez le couvercle du logement de la pile.

### 2 Insérez correctement une pile dans le logement en tenant compte de la polarité indiquée à l'intérieur.

### 3 Remettez le couvercle du logement de la pile.

### Remarques

Veillez à bien orienter les pôles ⊕⊖ de la pile. L'insertion de la pile dans les mauvais sens peut entraîner une fuite ou une rupture de la pile.

## C Fixation du microphone/récepteur

### Fixation du microphone à un vêtement, etc.

Fixez le microphone à une poche poitrine, etc. avec le clip. Fixez le microphone à une position adaptée au lieu où vous enregistrez. Pour déterminer la bonne position, raccordez un écouteur au récepteur et écoutez le son capté par le microphone. Vous pouvez aussi écouter le son en raccordant le récepteur à l'enregistreur avec le câble d'enregistrement et à l'écouteur à l'enregistreur. Pour le détail sur le contrôle du son, reportez-vous au paragraphe suivant qui s'y rapporte.

### Remarques

Si vous utilisez un appareil électrique médical, par exemple un stimulateur cardiaque, ne rattachez pas le microphone à un vêtement, par exemple à une pochette poitrine ou à une pochette intérieure. L'utilisation du microphone près d'un appareil médical peut avoir un effet nuisible.

### Utilisation du brassard (voir l'illustration C-①)

Fixez le microphone avec le clip au brassard et portez le brassard au bras.

## Utilisation du crochet d'oreille pour écouter (voir l'illustration C-②)

Si l'écouteur tombe trop facilement lorsqu'il est utilisé par un enfant ou une personne ayant de petites oreilles, essayez d'utiliser le crochet d'oreille pour écouter. Rattachez l'écouteur au crochet d'oreille pour écouter de la façon illustrée (voir l'illustration C-②, ④).

Suspendez le crochet d'oreille pour écouter à l'oreille, puis ajustez sa position de sorte que l'écouteur soit proche de l'orifice auriculaire. (C-② sur le dessin montre le crochet suspendu à l'oreille gauche.)

## Fixation du récepteur à la sangle du caméscope (voir l'illustration C-③)

Lorsque vous utilisez le récepteur avec le caméscope, fixez-le avec le clip à un endroit visible de sorte qu'il n'y ait pas d'obstacle entre lui et le microphone, par exemple à la sangle du caméscope, comme indiqué sur l'illustration.

## D Utilisation du microphone sans fil

### Utilisation du microphone sans fil comme microphone

Avant de raccorder le récepteur à l'enregistreur, assurez-vous que les interrupteurs d'alimentation du récepteur et de l'enregistreur sont en position OFF.

- Raccordez le câble d'enregistrement fourni à la prise d'écouteur du récepteur et à la prise d'entrée de microphone de l'enregistreur.** Le câble d'enregistrement est un câble non directionnel. Si l'enregistreur est monophonique, le son sera enregistré en monophonie. Si l'enregistreur est stéréophonique le son sera enregistré sur les voies droite et gauche.
- Mettez l'enregistreur sous tension puis en mode d'attente.**
- Mettez les interrupteurs d'alimentation du microphone et du récepteur en position ON.** Immédiatement après leur mise sous tension, les témoins de communication des deux appareils se mettent à clignoter en bleu, ce qui indique qu'ils essaient de se détecter, de se connecter et de s'authentifier. Lorsque la connexion est établie et que l'enregistreur est prêt à enregistrer un son net, le témoin de communication de chaque appareil s'allume en bleu.
- Après avoir vérifié que le témoin de communication sur le récepteur était éclairé, procédez à l'enregistrement sur l'enregistreur.**

#### Remarques

- Lorsque vous raccordez le récepteur à l'enregistreur, veillez à utiliser le câble d'enregistrement fourni. Le câble d'enregistrement fourni a une résistance interne pour le réglage du niveau sonore entre la prise d'écouteur et la prise d'entrée de microphone.
- Le volume de l'écouteur revient toujours à son réglage par défaut lorsque l'alimentation est coupée. Sony recommande d'utiliser le réglage par défaut pour l'enregistrement.
- Utilisez la touche de réglage du volume pour régler le volume de l'écouteur directement raccordé à la prise d'écouteur.
- Si vous voulez régler le niveau d'enregistrement audio, faites-le sur l'enregistreur. Lorsque vous réglez le volume de l'écouteur raccordé à l'enregistreur, faites-le sur l'enregistreur. Si vous changez le volume de l'écouteur, le niveau d'enregistrement changera également.
- Pendant l'enregistrement avec un caméscope, le bip de confirmation qui retentit au début de l'enregistrement peut être enregistré. Sony recommande de régler [BEEP] sur [OFF] sur votre caméscope. Pour le détail à ce sujet, reportez-vous au mode d'emploi de votre caméscope.

## Utilisation du microphone sans fil comme émetteur/récepteur

- Raccordez les écouteurs fournis aux prises d'écouteur du microphone et du récepteur.**
- Mettez les interrupteurs d'alimentation du microphone et du récepteur en position ON.**

### Remarques

- Si l'alimentation du microphone est coupée ou si le microphone et le récepteur ne sont pas raccordés au début de l'enregistrement, du bruit ou aucun son risque d'être enregistré. Assurez-vous que les témoins de communication du microphone et du récepteur sont éclairés en bleu et que la connexion est établie, puis procédez à l'enregistrement.
- Si un son d'impact est appliqué au microphone, le son ambiant est réduit pendant deux ou trois secondes par le réglage automatique de niveau de sorte que le son semble absent, mais il revient à son niveau antérieur. Il ne s'agit pas d'une défectuosité.
- Le son capté par le récepteur n'est pas enregistré.
- Lorsque vous appuyez brièvement sur la touche de réglage du volume, le niveau change d'un incrément. Lorsque vous maintenez la touche enfoncée, le niveau change en continu. Si vous appuyez sur la touche de réglage du volume pendant l'enregistrement, un cliquetis sera enregistré.
- Sony recommande de mettre le récepteur hors service lorsqu'il n'est pas utilisé pour l'enregistrement. (L'autonomie en veille de la pile du microphone est environ 3 fois supérieure à celle du récepteur.)
- Le témoin de communication et cet appareil peuvent s'éteindre un certain temps après le réglage de l'interrupteur d'alimentation sur OFF. Il ne s'agit pas d'une défectuosité.
- Le microphone sans fil traite et transmet le son numériquement, ce qui résulte en un léger décalage entre le son réel et le son enregistré (contrôlé). C'est pourquoi, lorsque vous l'écoutez par l'écouteur, un effet d'écho peut être audible. De même, si vous regardez des images avec le son enregistré par le microphone sans fil, cet effet de retard peut être perceptible. Toutefois, il ne s'agit pas d'une défectuosité.
- Réglez le niveau d'enregistrement audio sur l'enregistreur ou bien en changeant la distance entre le sujet et le microphone.
- Lorsque la charge de la pile est faible, le témoin de communication peut clignoter de manière irrégulière et le microphone et le récepteur peuvent ne pas communiquer entre eux. Il ne s'agit pas d'une défectuosité. Remplacez la pile par une neuve.
- Sony ne peut être tenu pour responsable si un enregistrement audio ne peut être réalisé correctement à la suite d'une panne de ce produit.

## Spécifications

Communication sans fil	Spécification Bluetooth Ver. 2.0
Système de communication	Spécification Bluetooth Power Class 1
Sortie	Advanced Audio Distribution Profile
Profil compatible Bluetooth principal	Jusqu'à 50 m (150 pi)
Portée*	
<b>Microphone (émetteur)</b>	
Autonomie en veille	Environ 9 heures**
<b>Récepteur</b>	
Autonomie en veille	Environ 3 heures**
<b>Microphone (émetteur)/récepteur</b>	
Système	Monophonique, non directionnel
Alimentation	1,5 V (une pile sèche alcaline AAA ou une pile rechargeable Ni-MH AAA***)
Consommation	Environ 0,3 W
Réponse en fréquence	300 - 9 000 Hz
Autonomie en fonctionnement continu	Environ 3 heures**
Dimensions (l/h/p)	Environ 24 × 75 × 33,5 mm (31/32 × 3 × 1 3/8 po)
Poids	Environ 26 g (1 oz) (sans la pile)
Température de fonctionnement	5 °C à 40 °C (41 °F à 104 °F)
Température d'entreposage	-20 °C à +60 °C (-4 °F à +140 °F)

\* Distance de communication approximative sans obstacle entre le microphone et le récepteur.

Selon le lieu où l'enregistrement est effectué, par exemple s'il y a des obstacles ou des surfaces réfléchissantes entre les appareils Bluetooth, des ondes radio, etc.

\*\* Avec un pile sèche alcaline Sony à 25 °C (77 °F)

À basse température, le temps de fonctionnement avec un pile sèche alcaline sera inférieur. L'emploi de piles rechargeables Ni-MH est recommandé.

\*\*\* Pile non fournie. Une pile sèche au manganèse devrait être utilisée.

### Articles inclus

Microphone (émetteur) (ECM-AW3(T)) (1), Récepteur (ECM-AW3(R)) (1), Câble d'enregistrement (1), Bonnette antivent (1), Étui de transport (1), Brassard (1), Écouteur (2), Crochet d'oreille pour écouter (1), Jeu de documents imprimés

La conception et les spécifications peuvent être modifiées sans préavis.

## English

(Continued from the front side.)

### 5 Hook for the strap

You can attach the strap etc. (not supplied) to the microphone/receiver. Use this as needed.

### 6 Battery warning lamp (BATT)

The red warning lamp blinks about once a second when the